

機械の学び：  
人工知能はいま、何を習得でき何ができないのか（  
講演 I）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-11-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 狩野, 芳伸 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10297/10434">http://hdl.handle.net/10297/10434</a>



狩野 芳伸

(静岡大学情報学部行動情報学科・准教授)

いわゆる人工知能関連技術の多くは、機械学習の手法を用いている。機械学習は人間と近い部分があれば、大きく異なる部分もあると考えられる。機械学習、あるいは人工知能によって人間の知的能力を実現することは、一つの大きな研究目標である。人間の知的能力の中でも言語の扱いは中核的な課題であるが、その仕組みは必ずしも解明されておらず、コンピュータにとっても言語の習得、扱いは難しい。コンピュータで人間の言葉を扱う自然言語処理分野の研究は、言語そのものにとどまらずその背後にある様々なレベルでの意味が必要であるという難しさがある。

コンピュータに試験問題を解かせるには、何が必要で何が課題なのか。人間と自然な会話ができるシステムを実現することはできるのか。文章を生成するのはなぜ難しいか。論文や電子カルテなど人間には扱いきれない大量のデータが利用可能であれば、どんなことが可能になるか。

本講演では、こうした講演者の取り組んでいる研究プロジェクトの概要を紹介し、機械についての学びとは何か、その現状と将来を考える切り口を提供する。

#### 演者略歴

東京大学理学部物理学卒業、東京大学情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻修士課程修了、同博士課程単位取得退学。博士(情報理工学)。東京大学特任研究員、科学技術振興機構(JST)さきがけ研究者等を経て、現職。

#### 専門分野/研究テーマ

自然言語処理、人工知能、対話システム、テキストマイニング

#### 主要プロジェクト

- 科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業 個人型研究 さきがけ 「情報環境と人」領域「解析過程と応用を重視した再利用が容易な言語処理の実現」研究代表者(2011-2014)
- 文部科学省 科学研究費助成事業 挑戦的萌芽研究 「人間同様に失敗する構文処理による自然な文生成の研究」研究代表者(2014-2017)
- 大学入試自動解答「ロボットは東大に入れるか」プロジェクト 社会科担当
- 科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業 CREST「イノベーション創発に資する人工知能基盤技術の創出と統合化」領域「自然言語処理による心の病の理解：未病で精神疾患を防ぐ」主たる共同研究者(2016-2018)
- 人狼知能プロジェクト オーガナイザー 自然言語部門担当